

「セーリング競技大会の再開に向けた感染拡大予防ガイドライン」

に沿った実施例（案）

2020.6.12 版

1. 感染防止を前提としたセーリング競技大会開催・実施案

大会開催・実施にあたっては、下記の実施案を参考にして十分な準備をして実施下さい。

(1) 情報管理体制

- 感染予防の責任者、定期的な感染予防ミーティング
感染予防の担当者を、大会主催側だけでなく、各部署に1人ずつ用意。
- 担当者間で協議し、大会会場に合わせた感染防止策をエントリー開始前に策定する。
- 大会期間中は毎日、各部署のミーティングの中で、担当者と役員の間で感染予防について気付いたことを話し合う時間を作る。
- 医療機関への連絡、および情報共有体制の確立
- 大会終了後も、2週間は連絡、および情報共有体制を維持すること

(2) レース運営

- **NOR/SIの作成**
 - 帆走指示書などの文書はWeb公開を行い各自で入手できるようにする。
 - 参加関係者への感染防止のための指示事項をNORに記載して、規則化する
 - リスク下でのレース実施に対する考えを表明
 - 事前に大会中止の条件を明示しておくこと
 - できるだけ日帰りでの参加なスケジュールとする
 - 感染防止に関する規則違反への裁量ペナルティーをあらかじめ検討しておく
- **エントリー受付**
 - 選手が3つの密を作らないように、会場の広さに応じた受入れ艇数設定
 - 入場許可証の発行<IDカード>
 - 参加費の受付時現金受け取り禁止、銀行振込等の推奨
 - 大会当日、体調不良の場合の乗員変更を可能とする事の記載<体調不良者の排除>
- **艇などの搬入受入れ/機装解装**
 - ハーバー到着時、船や施設に触るより前、手洗い・手指消毒の履行
 - 準備、片付けを時間差で行うなど、ソーシャルディスタンスの保持
- **陸上での信号/公式掲示**
 - 公式掲示板のオンライン化や掲示内容のメール配布の実施
難しければ掲示板に人が集まらない工夫(距離感、紙サイズ、文字の大きさなど)
従来方式とオンライン方式の併用の検討
※掲示板のオンライン化を採用する場合のNOR、SI案は別紙1の通り
- **開閉会式/表彰式/スキッパーズミーティング(フリーフィンク)**
 - 式の簡素化(行わないことを推奨)またはオンライン化、ビデオメッセージ配信
 - スキッパーズミーティングやコーチミーティングは、短時間実施。
質問をオンライン受付し、公式掲示にて全選手に公開返答など

- ・パーティーや交流会、講習会は自粛。特に屋内での実施は行わない。
- ・どうしても講習会を実施する場合には、Web 講習など、できるだけ集合しない形式で実施

● 出艇帰着申告/成績発表

- ・出艇帰着申告システム、得点照会の Web 活用検討
- ・陸上では 3 つの密を避ける為に通常より多くの時間が必要となる。レース開始終了時刻については、選手・大会関係者に十二分に時間的余裕を与えられる様な考慮
- ・スロープでの 3 つの密を避ける為、時間差の出艇や着艇を事前にルール化
同時に海上に居る艇数や種目も制限

● 海上運営

- ・運営ミーティングのオンライン化、または広い屋外での短時間実施
- ・運営艇/サポート艇の出艇数削減(設置マークの削減)
- ・運営艇/サポート艇の乗艇人数制限
艇当たり少人数で運営できるようにフラッグやシグナルの簡素化も検討
- ・そのためにマーク移動やその他の運営に制限が出る場合には、SI にて明記

(3) 計測

- ・選手には事前にチェックリストを提出させるなど、大会計測の簡略化
- ・計測時には室内の換気充分行い、また待機列が作らないなど 3 つの密への対策実施

(4) プロテスト

● ジュリーポート

- ・UMP/ジュリーポートの乗艇人数制限（2 名を推奨/1 名での運用は困難）
- ・マスク、フェイスガード等の着用
- ・電子ホイッスル使用、またはレース委員会の音響が重ならない音響信号の用意

● 選手の規則対応への変更<SI への記載が必要>

- ・競技者の声かけについて

RRS では競技者に大きな声をかけることを求めている規則があります。

このうち規則 61.1 については下記の変更をすることで声かけの義務を無くします。

規則 61.1 「プロテスト」の声かけを無くし、抗議の意思は「赤色旗の掲揚」で示す

※艇種によっては難しい場合がある ※同じく声かけが求められる規則 20 は変更不可

- ・リタイア申告などにおけるハンドサイン

規則に規定はありませんが、リタイアの申告などで声かけをしない方法として、ハンドサインを用いることを SI に規定します。 ※いずれも[DP]が妥当

● 抗議、救済要求

- ・抗議書、救済の要求を電子データで提出
電子データ作成、紙の抗議書の写真撮影などをメールで提出、またはオンラインフォーム (Google など) 記入による提出など、送付先アドレスの明記
- ・文書 BOX の活用
オンラインが困難な場合、直接手渡しせず済むよう、文書 BOX を設置

● 審問

- ・付則 T の積極的採用の検討
「レース後ペナルティー」や「調停ミーティング」により審問数を低減
※会場にあわせて、実施方法は事前に決めておく

スムーズな呼び出しのため事前に連絡先の把握、調停ミーティングの場所など
※調停そのものを、オンラインで実施する場合することも可能だが準備が必要

- オンライン審問の実施、または個室とオンライン設備の用意、貸出用モデルシップの準備
審問をオンライン(リモート：テレビ会議)実施。

スマホでも可能なため幅広い年齢層が実施可能であり、部分的にオンライン化も可
(ジャッジ3名のうち、1~2名をリモート参加とするなど)

※スマホなど環境がない人向けに機材や、別途通信環境や部屋などが必要

※具体的な手法についてはマニュアルの作成を検討中

(ジャッジマニュアル E.12、US Sailing Guideline など参照)

- オンサイト審問の実施(オンライン審問が困難な場合)

基本的には会場の感染対策にあわせますが、具体的な手法は下記の通りです。

どうしてもできない場合には、ソーシャルディスタンス確保のための大きな会議室を利用
人と人の距離をとり、遮蔽板やビニールシートなどを設置(消防法に注意)

モデルシップとホワイトボードを2セット用意し、共有しない(可能であれば)

審問ごとに部屋の内部、機材を消毒

オブザーバー参加はなし、パネルに入るジャッジ人数も3人までに制限

- アンパイア制フリートレースの実施検討

アンパイア制レースによる審問の低減を実現できるが、実施にあたっては、参加艇数に見合
ったアンパイアボート、および人員・機材の準備などの用意などが必要

※アンパイアボートがカバーできるフリート数に設定ができなければ推奨しない

- 控室について

審問控室やプロテスト委員会の控室の距離を保てる広さの確保とマスク着用

プロテスト委員会メンバー間のオンラインミーティング実施

(5) 海上での3つの密回避<レース艇/運営艇/ジュリーボート共通>

- 海上では乗員同士の接近に注意する。

- 支援(救助/コーチ)艇の出艇制限、および乗艇人数制限

- 可能であれば、マスクの着用。手指消毒(乗艇前とマスクや機材、筆記用具に触れた都度)
但し、熱中症対策も必要。

- 飲料の飲みまわし禁止、昼食の個人準備(食事前の手洗い)

- 接触を回避するために、同一艇内での役割分担を固定し、ハンドルやポールなどに複数人が接
触しないよう検討

(6) 陸上での3つの密回避<着替え、トイレ>

- ハーバーでは、可能ならロッカールームを使わず、着替えはポンチョ等を利用し屋外で、雨
の場合は屋外の屋根の下か換気の良い室内などで行うよう工夫する

- 暖かくなればホースで体を洗って海水を流し、シャワーは家(または宿)に帰ってから行う

- 着替中にマスクを触ったらその後、昼食前、昼食後にマスクを触った後、手洗いをする

- 雨天時の待機場所の確保

以上

オンライン掲示板/審問を導入する NOR、SI の案

セーリング競技規則の付則 K および付則 L で使用されている番号は、例で使用されており、文書の番号に合わせて変更する必要がある。

○レース公示

9 帆走指示書

9.1 帆走指示書は____以降にレガッタウェブサイトの____で入手できる。

9.2 レース公示または帆走指示に関する質問は、メール[メールアドレス]により〇〇レースオフィスまで書面で提出できる。レース委員会またはプロテスト委員会からの回答は、公式の掲示板に掲示およびオンラインに投稿される。

○帆走指示書

2 競技者への通告

競技者への通告は、[Web アドレス]に設置された公式掲示板に掲示される。

4 陸上で発せられる信号

陸上で発せられる信号は、〇〇に掲揚され、その通知はテキストメッセージまたはメール、あるいはその両方ですべての競技者に送られる。

16 抗議と救済要求

16.1 抗議および救済または審問再開の要求は、[Web アドレス]で電子的に提出、または[Web アドレス]などの電子フォームを使用して[メールアドレス]にメールで提出、またはプロテスト事務局で入手可能な紙のフォームで提出することができる。

これらは全て適切な締切時間内に提出されなければならない。

16.3 審問の当事者であるか、または証人として名前があげられている競技者に、審問のことを知らせるため、抗議締切時刻後 30 分以内に通告が掲示される。審問は仮想プロテスト・ルームで開催され、その場所はプロテスト委員会によって当事者および証人に提供される。

※US Sailing 「Return'to'Competition'Planning」 Appendix A 和訳を参考

<https://cdn.ussailing.org/wp-content/uploads/2020/05/Return-to-Competition-rev.07May2020.pdf>

声かけを減らす SI 案

セーリング競技規則の付則 L で使用されている番号は、例で使用されており、文書の番号に合わせて変更する必要がある。

○帆走指示書

16 抗議と救済要求

16.1 規則 61.1 (a) の 2 番目の文を以下と置き換える。

「その抗議がレース・エリアで関与したか、または目撃したインシデントに関わる場合、艇は最初の妥当な機会に目立つように赤色旗を掲揚しなければならない。」

16.2 規則 61.1 (a) (1) を以下と置き換える。

「相手艇が声を掛けられる距離以上に離れている場合には、その意思を、帰着後、規則 61.3 の締切時刻までに、相手艇に伝えなければならない。」

16.3 規則 61.1 (a) (2) を削除する。

16.4 規則 61.1 (a) (3) を以下と置き換える。

「インシデントが、コースの帆走に関する相手艇の誤りであった場合には、赤色旗の掲揚は不要だが、その意思を、帰着後、規則 61.3 の締切時刻までに、相手艇に伝えなければならない。」

18 安全規定

18.2 レースからリタイアする艇は、頭上に両腕でバツ印を作ることにより、できるだけ早く運営船に伝えなければならない。[DP]

18.3 救助を求める必要がある場合には、手のひらを広げて振り、その意思を表すこと。救助の必要がない場合には、こぶしを握って振ること。[DP]

マスクの種類について

陸上や運営艇内などでは、入手可能であれば、サージカルマスクやフィルター性能が保証されたマスクの着用を勧めます。

セーリング中は、スポーツ用マスクやネックゲイターなど、運動に適した、通気性の高いマスクでは不十分である、と言うだけの根拠はありません。

• N95 マスク

正しく装着すれば、飛沫感染、エアロゾル感染ともに、他の人から自分にうつることを防ぐことができます。

• サージカルマスク（医療機関で使っている、普通の形のマスク）

5nm までの粒子を補足することを目的としていますが、顔との間に隙間があるため、他の人から自分にうつることを防ぐ事はできません。

自分から他の人にうつしてしまうのを防ぐ目的で、使います。コロナウイルスの場合、飛沫感染、エアロゾル感染ともに、防ぐ効果があるようです。欠点は、通気性が低く、運動時に呼吸が上がると息苦しいこと、特に水に濡れた場合は通気性がさらに低下します。

• PM2.5 対応などの市販マスク

フィルター性能からは、サージカルマスクと同程度の効果が期待されますが、メーカーによって形状や構造が異なるので、見極めが必要です。

• スポーツ用マスク、ネックゲイター

運動中も呼吸しやすいことを謳ったマスクは、上記のマスクより、フィルターの網目（もしくは捕捉可能な粒子の大きさ）が大きかったり、フィルターの網目の大きさの記載がなかったりするものが多いです。自分から他の人にうつすのを防ぐ効果がどれくらいあるかについて、きちんと検証されているものは見当たりません。他の人から自分にうつるのを防ぐ効果は、ないと考えられます。

• フェイスシールド、アイシールド

医療機関で使っている、顔全体をマスクごと覆うタイプのフェイスシールドは、患者さんのつばや体液が直接 N95 マスクに付着するのを防ぎ、貴重な N95 マスクを長く利用し続けるために使われます。また、目からの感染を防ぐ目的でも使われます。眼鏡のようなアイシールドは、目からの感染を防ぐ目的で使われます。

全員がマスクを着用し、手洗い、手指消毒を行なっているセーリング競技会においては、目からの感染を防ぐ目的で、アイシールド、フェイスシールドの装着を推奨するものではありません。

また、アイシールドをサージカルマスクに組み合わせた場合、サージカルマスクの「他の人から自分にうつるのを防ぐ効果」が期待できる可能性があります。換気が十分で、全員がマスクをつけているか、2m の距離が保てていれば、これも必要性がありません。

健康状態チェックシート 2020年 月 日

お名前 _____ 性別 (男・女) 年齢 _____ 才

体温 _____ °C 体重 _____ kg 身長 _____ cm

体調についてお聞きします。
あてはまるところに記入してください。

- | | |
|-----------------------------------|-----------------------------|
| <input type="checkbox"/> 発熱 | <input type="checkbox"/> 嘔吐 |
| <input type="checkbox"/> 鼻汁 | <input type="checkbox"/> 下痢 |
| <input type="checkbox"/> のどの痛み | <input type="checkbox"/> 腹痛 |
| <input type="checkbox"/> 頭痛 | <input type="checkbox"/> 発疹 |
| <input type="checkbox"/> 味覚・臭覚の異常 | |

食 事 : 普段どおり あまりとれず とれず水 分 : 普段どおり あまりとれず とれず睡 眠 : 普段どおり 時々起きる 眠れず

排 便 : 1日 (_____ 回)

*ご家族・お友達で具合の悪い方、その他まわりで流行している病気がありますか？

無 有⇒ (_____)*今飲んでいるおくすりは？ 無 有⇒ (_____)